



森下さちこニュース

議員団ホームページ <http://jcpwkym.sakura.ne.jp/> Tel 453-1113

2006年10月号
和歌山市鳴神 1145-6
TEL:474-6556

《和歌山市定例9月市議会終了》

森下さちこの議会報告です

9月11日開会の定例議会は10月2日に終了しました。提案された23件の議案のうち共産党議員団は17件に賛成し6件に反対しました。反対した議案の主な内容は次のとおりです。

誰のための 中心市街地活性化?

国の「暮らし・にぎわい再生事業補助金」を使って市は中心市街地Ⅱ旧丸正ビルを再生するために2億円の補助金を出すと提案しました。この補助金はビルの再生に要する経費のうちエレベーターなど共同施設部分の改修費に充てるもので国3億円、県1億円、市2億円という内訳になっています。この補助金を使うために

は市が『中心市街地活性化基本計画』を策定し国に認定してもらおう必要があります。ところが最も基本であり土台となる『基本計画』はまだ策定できていません。

旧丸正ビルについてはすでに和島興産が、今年3月に土地と建物を取得、6月には地権者との交渉が終了しています。和島興産は単独で丸正ビルの再生をする予定でした。しかも市は今回の2億円を財源不足により貯金である「財政調整基金」を取り崩す計画

『赤旗まつり』 みなさんお越しく下さい!!

11月12日(日)片男波公園にて
午前10時～午後3時30分

☆子ども広場、フリーマーケット、新鮮野菜・青空市、囲碁・将棋コーナーなどなど
東ブロック後援会は焼き鳥、ぜんざい、バザーを出店します。私は候補者紹介で舞台に立ちます。

《参加券販売しています》

参加費 1000円(200円のお買い物券付き)
お近くの党员まで

◇10月の日程◇

- 16日(月)～20日(金)2005年度市決算委員会
- 19日(木) 県政・市政報告会 午後7時より
プラザホープにて
- 31日(火) 大運動実行委員会 対市交渉 午後1時
勤労者総合センターにて

同じ公立保育園なのに 一方では移転・新築

財政が厳しいと言う一方でわざわざ市が2億円を出す必要性が果たしてあったのでしょうか。

和歌浦保育所を来年3月末で廃園にする条例が提案されました。和歌浦保育所に通っていた子供たちは来年4月から近隣の私立片男波保育所に転園します。

朝夕の涼しさとにぎやかな虫の声が秋たけなわと感じさせてくれます。
先日、小学校の運動会がありました。子供たちにとっては1年の中の大きな行事であり、半年間の成果を発表する時期です。どの子も秋風の中、気持ちの良い汗を流したことでしょう。一年の中で最も過ごしやすい気候の中、みなさんも気持ちの良い汗をかいてみませんか。



何よりもまず、計画を策定し市民に広く内容を知らせその妥当性を議論するというプロセスが欠けています。

公立保育所は行政改革方針の下で統廃合が進められつつあります。その優先順位は①借地であるため②木造で老朽化が進んでいるため(裏面へつづく)

森下さちこの9月議会報告

(表ページより)

③鉄筋の建物の耐用年数が近づいているためとなつていますが、私は保育所については行革方針からはずし、地域の子育て機能を担う事業として位置付けるよう求めてきました。

今、公立保育所に求められているのは多様な市民ニーズに応えられる保育内容と体制・子育て支援策の充実です。和歌浦保育所は

保護者たちが地域の財産として残して欲しいと訴えてもいたところですが、市はそれにはほとんど耳を貸すことはありませんでした。



ところが、この9月議会に同じ公立である杭の瀬保育所の移転・新築のためだといつて1億円を超

える予算が提案されてきました。

和歌浦保育所の廃園は借地保育園であるというだけではなく財政的に厳しいのでなくすという説明がされていたことと比べると全く整合性がありません。

障害者自立支援法
関連の条例には
せひ減免を！

10月から、国の自立支援

法に基づく障害を持つ方への給付サービスが始まりました。法をそのまま踏襲すれば1割の自己負担がかかります。国の減免制度を使ったとしても、これまでが最も強い「次世代育成支援計画」との整合性もないことから常任委員会では紛糾し、市長が出席して「この予算の凍結をしたい」と答えました。

園舎の建て替えは悪いことではないとしても、他の公立保育所との違いがあまりにも突出しています。公立保育所全体の今後のあり方を財政計画を含め、まず明らかにするべきではないでしょうか。

今回、市は認定区分で非該当となつた方への「障害者生活支援員派遣事業」を行うための条例を提案しましたが、中身を見てみると国のマニュアルどおりとなつており市の主体性、独自性が全くありません。

地方自治体の役割は国の法の不備や欠陥を補うという点でも重要であることから、和歌山市独自の減免制度を作るよう求めました。



こんにちは！
ふじい
藤井健太郎です

9月議会が終わりました。私たち共産党県議団は保育所と幼稚園の役割を合体させて作る「認定こども園」、桐蔭高校への中学校設置、そして県が行う土砂災害防止工事への市町村負担金の徴収に反対しました。

◇新しく作られる「こども園」は、誰でも子どもを預けることができますが、施設と利用者との契約となつていて、利用料は施設側が自由に決めることができ、職員の配置数も保育所より少なくなっています。

◇桐蔭高校への中学校設置は和歌山市では向陽高校に続いて2校目ですが、義務教育での中・高一貫教育は中学校の序列化を招いており、地域全体の学力向上にはつながっていません。

◇県が行う県土の保全工事に対して、該当する市町村から負担金を取ることは地勢による地域間格差が生じることとなります。

◇県庁への大阪地検の捜索について知事はいっさい関係ないと突っぱねました。今後の行方が注目されます。

